みどりの風

令和４年２月１日発行
校　報　　５９３号
（みどりの風　１３６号）
練馬区立関町北小学校

社会規範を前提とした個性伸長を

主幹教諭　鈴木　智裕

私が教師として数年目の駆け出しだった頃、私にとって教師の「モデル」となる先輩ができました。その先生とは同じ高学年担任として仕事をさせていただきました。その先生の学級は、いつも子供たちが楽しそうに過ごし、笑い声の絶えないクラスで、先生の明るい人柄がそのままの姿で表れているようでした。

私の初任校は、当時２学年合同で運動会の表現運動をしていたため、高学年合同で練習をしていました。私が中心となってソーラン節を指導したのですが、高学年全体に向けて話をしていたとき、私のクラスの一部の子が、話を聞くそぶりを見せずおしゃべりし始めました。その様子を見て、その先生は「静かにしなさい！」と大声で叱りました。その後、その先生はしばらく無言でしたが、おしゃべりをしていた子はとてもびっくりして静かになり、校庭には一気に緊張した瞬間が生まれました。

その先生は、しばらくすると「みんな静かに話を聞いているんだ。私はわがままな人は許さない。それでもおしゃべりを続けたいのならばこの場から立ち去りなさい。」と凛とした表情と口調で子供たちに伝えました。その先生のいつもニコニコしている様子と異なる姿に、私自身がとても驚いたのを今でも鮮明に覚えています。

子供は、いつでもよいことをしているわけではありません。時には、規範意識の欠けた行動を叱り、有無を言わさず「社会のきまり」や「人としてのふるまい」を教えることが必要です。教師を含めた、保護者や地域の「大人」は、子供を納得させる必要がありますが、機嫌を取り、迎合する必要はありません。「好きなことだけをさせる、嫌がることをさせずにそのままにする」という育て方は、自己中心的で周りに要求ばかりする人間を育てることにつながり、本当の教育とは言えません。

「子供の個性を伸ばそう。」とても素敵な言葉です。しかし、その意味をはき違えるとわがままを助長し、身勝手な行動をする子に育ってしまうことにつながります。関町北小学校でいえば「名札をつけない」「校帽をかぶらずに登校する」「体育の時にフードのついた服装で授業に臨む」「くつのかかとを踏む」「給食は好きなものだけを食べる」などの行動が当てはまるかもしれません。ですが、そんなものは「個性」ではありません。

教育の大きな目的・役割は、社会で生活していくためのきまり・規範・常識を育んでいくことです。それが身に付いたという「前提」がある中で、自然とにじみ出るもの、湧き出てくるものこそが本当の個性です。

個性を伸ばしていくことは確かに大切です。ですが、人は誰もが自分一人では生きていくことはできません。だからこそ、社会の一員としてルールを守り、保護者・地域や教師をはじめ、周りの大人たちの指導・叱咤に感謝することを通して、自分の成長を実感できる子になってほしいと願っています。

私は、その先生から、教師としての立ち振る舞いだけでなく、教材研究の仕方、移動教室でのレクリエーションの行い方など、本当に多くのことを学ばせていただきました。当時のその先生の年齢をすでに越えた今でも、残念ながらその先生には遠く及びません。今でもその先生の姿を「モデル」として追い続けています。私たち大人も、いつまでも学び続ける姿勢をもち、何かを追い求めることを大切にしながら、未来を担う子供たちのために邁進していきたいものです。